青森タイムトラベル

第17回

津軽半島と県都を結ぶ
～青森市北部の近現代史～

【問合せ】市民図書館歴史資料室（☎017―732―5271）

奥内村と後潟村

明治22年（一八八九）の市制町村制の施行で、東津軽郡の奥内村は七つの村、後潟村は五つの村が、それぞれ合併して誕生しました。両村共に第一次産業を生業とした歴史を有しています。東側を青森湾に面し、西側は津軽半島の山地で、北津軽郡と隣接します。集落は海側の南北を走行する現国道280号（旧松前街道）沿いに並んでいます。

戦後の昭和30年（一九五五）に奥内村、翌年に後潟村が青森市と合併し、青森市の大字になりました【写真①】。奥内と後潟の漁港ではホタテの養殖業が盛んです。特に後潟漁港では、ホタテやホヤなど地元海産物を紹介するため「うしろがた漁港まつり」を開催しています。

【写真①】後潟支所（旧後潟村役場）（歴史資料室蔵）

内真部の美林と津軽森林鉄道

奥内村と後潟村の西側は、内真部を中心に優良なヒバ材を産出する美林地帯でした。この地域で伐採された森林資源は、明治42年（一九〇九）に完成した青森市と北津軽郡の喜良市村（現五所川原市）を結ぶ津軽森林鉄道によって、青森営林局（現森林博物館）の敷地内まで運搬されました【写真②③】。このため奥内村と後潟村には、森林鉄道の支線が張り巡らされたのです（『新青森市史』通史編第四巻現代、第二章第四節）。

興味深いのは、森林鉄道が地域の交通手段として活用され、生活必需品の輸送にも利用されていたことです。森

【写真②】津軽森林鉄道の台車に乗って山に上がる作業員たち（昭和39年5月1日・小山内文雄さん撮影〈泰斗舎刊『写文集　愛しの昭和』より転載〉）

【写真③】津軽森林鉄道　木材をけん引するガソリン内燃機関車（木炭ガス発生装置付）（青森市教育委員会蔵）

森林博物館に「津軽森林鉄道」常設展示室オープン！

問森林博物館（☎017―766―7800）

林鉄道は地域を日常生活面からも支えていたのです。

森林鉄道は4月から11月までの季節運行でした。このため林道が整備されると、通年運行のトラックに追いやられ、昭和42年（一九六七）に姿を消しました。

津軽線の開通と市営バス

昭和26年（一九五一）に青森市と奥内・後潟両村を結ぶ国鉄津軽線が開通し、油川・奥内・後潟の各駅が開業しました。国道280号は、冬季になると風雪により通行が困難となるため、奥内・後潟両村民にとって津軽線の開通は悲願でした。

【写真④】奥内海水浴場（昭和42年・広報広聴課蔵）

その一方、津軽線の開通は、東津軽郡の圏内を走行する青森バスがドル箱と称した青森・蟹田間に影響を与えました。この結果、昭和29年に青森市営バスは経営の悪化した青森バスを買収し、事業区域を東津軽郡内にまで広げました。奥内や後潟両村と県都青森市の交通上の結び付きは、昭和の合併で青森市となる以前から始まっていたのです。

青森湾の砂浜

青森湾は西側の津軽半島と東側の夏泊半島に囲まれた湾です。西側の奥内周辺には大字の「西田沢」があり、東側の平内町には「東田沢」があります。実に対照的で興味深いですね。

青森湾の西側は、そのほとんどが砂浜海岸だったので、奥内・後潟両村は波浪による浸食を受けてきました。台風や季節風で、田畑や道路はもちろん家屋の床上浸水などで、山地へ家屋を移転することもありました。

そこで昭和33年（一九五八）、西田沢から広瀬までが海岸保全区域に指定され、昭和37年度以降に護岸工事が着手されました。西田沢・内真部・後潟などに区画された工区の護岸工事が進捗するにしたがい、新聞で報道される波浪被害は減少していきました。

奥内の海水浴場

護岸工事が進む以前、奥内地区の海には、遠浅で美しい海水と砂浜を有する海水浴場が設置されていました【写真④】。昭和38年（一九六三）7月、奥内小学校の校地内に海水浴場が設けられました。海水浴場は子どもたちの体力向上や健康増進などを考える親たちの願いから誕生したのです。

当時、県内で校地に海水浴場を持つことは珍しかったのです。昭和42年の夏、合浦公園の海水浴場が海水汚染のため封鎖された際は、市営バスが停車し、最寄りに奥内駅がある奥内の海水浴場は大変なにぎわいでした。しかし昭和47年、奥内の海水浴場も海水汚染のために閉鎖されてしまいました。その後、海水浴場は護岸され、今はホタテ養殖場となっています。

大切な役場文書

青森市史編さんの過程で収集・整理された旧奥内村【写真⑤】の役場文書には、昭和12年（一九三七）の日中戦争以降、村内の児童や生徒らが戦争へ動員されていく過程が描かれています。

戦争が長期化するにしたがい、役場の仕事は繁雑となりました。事務分担や事務処理が激増し、職員は徴兵される状態でした。動員業務も十分に機能を果たせない過酷な状況だったことが新たに判明したのです（『新青森市史』通史編第三巻近代、第三章第四節）。

昭和の合併で消えた奥内村の役場文書は、貴重な歴史資料です。現在、いずれも青森市民図書館の歴史資料室で大切に保管されています。

（元『新青森市史』通史編執筆協力員・中園美穂〈青森県史編さん調査研究員〉）

【写真⑤】
奥内支所
（旧奥内村役場）
（歴史資料室蔵）